

達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題				○成果	▲課題
	第4学年	第5学年	第6学年		
国語	○「話すこと・聞くこと」の領域は正答率が95%を超え、定着している。 ▲書くこと、読むことの領域において、正答率が低く課題がある。	○「話すこと・聞くこと」の領域は正答率が85%を超え、定着している。 ▲書くことの領域において、正答率が低く課題がある。	○「話すこと・聞くこと」の領域は正答率が90%を超え、定着している。 ▲情報の扱い方に関する単元において定着に差が見られ、補充が必要である。		
社会	○「地理的環境と人々の生活」の領域は、概ね定着している。 ▲「歴史と人々の生活」の領域において、正答率が低く課題がある。	○「地理的環境と人々の生活」の領域は、概ね定着している。 ▲既習の知識や資料から読み取ったことを結び付けて表現することに課題がある。	○思考・判断・表現の観点、現代社会の仕組みや働きと生活の領域は、概ね定着している。 ▲既習の知識や資料から読み取ったことを結び付けて表現することに課題がある。		
算数	○図形の領域においては、正答率が高かった。 ▲どの領域においても定着度が低い。ため、反復学習、ステップ学習等の補充が必要である。	○どの領域においてもおおむね理解できている。 ▲知識・技能の観点で、定着に差が見られ、補充が必要である。	○「立体図形」、「速さ」の単元に関しては、正答率が高く概ね定着している。 ▲どの観点、領域においても定着に差が見られ、補充が必要である。		
理科	○どの観点、領域においても概ね定着している。 ▲実験や調査の結果をグループで話し合っまとめる活動に課題がある。	○基礎的な内容は、概ね理解できている。 ▲知識と現象を結び付けて考える力に課題がある。	○どの観点、領域においても概ね定着している。 ▲知識と現象を結び付ける力、実験から考えられることを記述する力に課題がある。		
授業改善の方針					
国語	・「書く能力」を高めるために次の3点の手だてを取り入れる。 ①日常の中で書く場面を増やし、書くことへの苦手意識や抵抗感を減らせるようにする。(日記や観察、作文などを家庭学習でも取り入れるようにする。) ②説明文や物語教材のキーワードやキーセンテンスを意識し字数に気を付けて本文をまとめさせるような学習を取り入れる。 ③作文を書く際には段落を意識して書かせるようにする。 ・情報の扱い方については、筆者の結論や自分たちの意見が、読み手や聞き手にとって、よく分かる、納得できるものになっているかを問い、根拠や原因となる事実とのつながりを共に検討していくような学習を積極的に取り入れていく。				
社会	・単元導入時に、関連する写真やグラフ等を提示し、学習への興味・関心を高められるようにする。 ・資料やグラフから読み取ったことを表現する力を伸ばすために、日頃から課題意識をもっていろいろな資料に触れさせ、課題解決に活用できる機会を充実させる。 ・社会的事象について考えたことを、資料を用いて説明したり、根拠や理由を明確にして話し合ったりする活動を通して思考力・判断力・表現力を養う。 ・地図帳や統計・年表などを活用したり、白地図や新聞にまとめたりする活動を計画的に取り入れる。				
算数	・単元導入で、できる範囲で日常生活の中で、算数の考え方を使って問題解決できる場面を設定する。 ・既習事項と、新しい知識を結び付ける場面を設定する。 ・算数の学習として学んだことを日常の事象に戻って考える場面を設定する。 ・少人数学習熟度の学習形態を生かし、D層の児童には個別指導の時間を多く確保する。				
理科	・単元導入時に、関連する既習事項や生活経験を想起させ、これから始まる学習への興味・関心をもたせる。 ・単元の中で「問題作成～予想～実験計画～観察・実験～結果～考察～結論」を繰り返し行い、実験結果から考察し、結論を導く活動を通して思考力を育成し高めていく。 ・可能な限り実際に観察・実験を行い、児童が実感を伴った理解をできるようにする。それが難しい場合にはタブレットで動画を見せるなどして、できるだけ実際に近付けた体験ができるようにする。				
音楽	・各自の個性や特技を生かし高めることができるよう、個別・グループ・全体などの場と、効率的な時間設定を組み合わせる充実させ、学習を展開する。 ・音楽会を通して得た、表現する楽しさや喜びの経験から、伝える力や他者とつながる力を育成する。 ・グローバル化する社会を視野に入れ、様々な国や地域の楽曲と出会い触れる機会を増やし、豊かな感性の育成を図る。				
図工	・学習意欲を高める問題提示を行い、児童の主体的に学ぶ力を高める。 ・つくりかえる時間を十分に設定し、材料・用具の体験から、児童の知識・技能を高める。 ・主題や表現を捉え直す時間を設定し、協働的な活動や対話的な活動を通して、児童の思考力・判断力、学びを調整する力を高める。 ・振り返りを充実させることで、児童が達成感を得られるようにすると共に、学習内容と生活や社会とのつながり等、学びの意義が実感できるようにする。				
家庭	・実習等のレポート作成や考察、思考したことを発表するなどの言語活動を充実させ、進んで伝えようとする力を育成する。 ・情報通信ネットワークを活用して調べたり、気付いたことをタブレットで共有したりするなど、ICTを積極的に活用する。				
体育	・体力低下を補うため、時間走や短縄などの体力を高める運動を授業冒頭に取り入れる。 ・スポーツ鬼ごっこやコーディネーショントレーニングを日常的に取り入れ、体を動かすことの楽しさを身近に感じられる工夫をする。 ・対話的な学習活動を通して、良い動きを見極めたり、自己の機能や体力を自覚したりする力を育成する。				
外国語	・アルファベットの順番や文字を定着させるため、短時間学習の際に繰り返し取り組んだり、掲示物を工夫したりして日常的に学習できる環境を整える。 ・高学年の外国語科では、振り返りの時間を設け、児童が自分で到達度を確認できるようにする。 ・ICTを活用して「聞く・読む」の習熟を行い、録画機能や録音機能を活用し「話す」の習熟度を自分で確認できるようにする。				